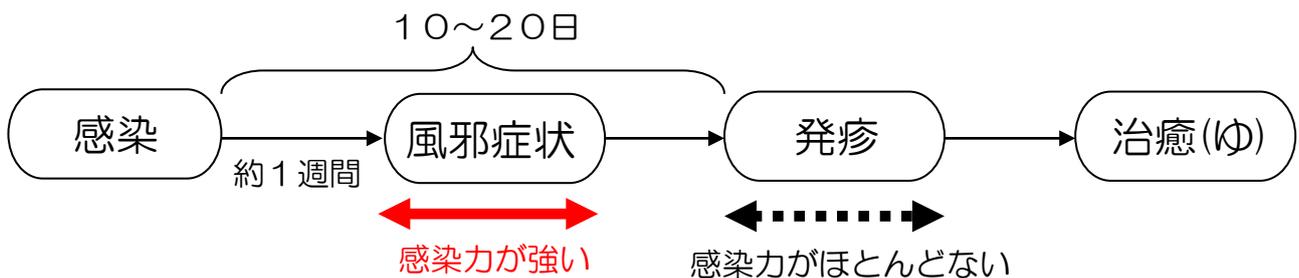


伝染性紅斑(リンゴ病)

伝染性紅斑はウイルスを原因とする感染症で、両頬がリンゴのように赤くなるため「リンゴ病」ともよばれます。年始から流行し、7月頃に流行のピークがみられます。

★症状★

- 感染後、約1週間程度で軽い風邪症状が現れることがあります（この時期に最もウイルスを排出します。）。
- さらに、感染してから10～20日後、両頬にリンゴのような紅い発疹が現れ、続いて手足にも発疹がみられます（この時期には感染力はなくなっています。）。



- 5～9歳の幼児、特に5歳前後にかかることが多く、ほとんどは軽症です。
- 妊婦さんが初めてかかると、胎児に影響を及ぼすことがあります。

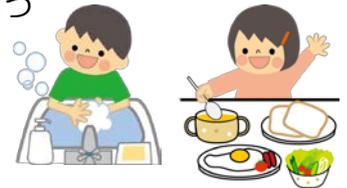
★治療方法など★

- 有効な薬はなく、症状を和らげる治療（対症療法）となります。

★感染経路と予防方法★

ウイルスを含む患者のくしゃみのしぶきを吸い込んだり、手や指を介して口に入ったりすることで感染します。症状がある場合は、マスクを着用し、人にうつさないようにしましょう。

かからないためには、流水と石けんでしっかりと手を洗いましょう。また、栄養と睡眠を十分に取り、体力・抵抗力をつけましょう。



☆正しい手洗い方法の紹介☆ (京都市こどもの感染症 「手洗いの方法」)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>

気になる症状がある場合はすぐにかかりつけの医療機関を受診しましょう！



★お問合せ先★

○京都市保健福祉局衛生環境研究所 微生物部門
(TEL:075-606-2676 FAX:075-606-2671)

(平成28年5月編集)